



久保田千尋さん

久保田千尋さんは高校1年にオハイオ州コロンバスから入学した帰国生で、バレーボール部のキャプテンでもある寮生です。彼女のテーマは「子供のための英語の絵本」。アメリカの子供達がどのように英語を覚え、英語の絵本のリズムや親の読み聞かせについて文献で調べ、日本語と英語の絵本の比較を行いました。やや易しい絵本としての比較では「だるまちゃんとかみなりちゃん」「The Very Hungry Caterpillar」を用いて、絵の描かれ方、絵の与えるインパクト、物語の構成、ストーリーの一番初めの言葉などを分析、やや難しめの絵本としては「つみきのいえ」と「The Cat in the Hat」を取り上げて、文の終わり方と物語の進み方への与える印象の比較、登場人物の表情と物語の表現との比較を分析しました。そして自分で絵本を作成し、子供の頭に入りやすい英語とはリズム感のある文章であることを考察しました。絵本は病気のおばあちゃんにハートちゃんは何でも治るハート型のあめを届けるというお話。キャラクタの設定やメッセージの設定、設計や作成の仕方の他に、リフレイン効果として、ハートちゃんが困った人にあめをあげる場面のたびに、Please, please eat my heart. If you are hurt, Please eat my heart. という文章を使い、また、In the middle of the forest, There lived a Heart. She was the happiest Girl in the town. という子供の気を引きつけ続けるためのリズムのある文章を考えました。そして、“Uh oh” “Yum” という日常的によく使う言葉を多用し、“Then” “Next”などの接続詞、物語をわかりやすくする形容詞（Now look at the basket! That sparkly, shiny, beautiful basket.）を用い、文章を「？」で終わらせることで、読者にページをめくる楽しさを与えました。

半田希美さんは帰国生ではありません。書道部の彼女のテーマは「System consolidation における記憶の転送、想起と海馬との関係」。記憶システムを脳科学から考察した研究です。国内海外の論文を調べていくうちに、海馬で形成された記憶が前頭前野へ依存性が変化し記憶が転送固定されるという現象に注目しました。海馬CA1の3つの経路のうちの第3の経路が Systems consolidation の経路に合致することからこの経路に注目し、pattern completion が systems consolidation 後も海馬で行われているかどうかを調べる方法を提案しました。論文の著者、エジンバラ大学 Centre for Cognitive and Natural Systems の Richard G.M.Morris 教授やアメリカ国立精神衛生研究所の中沢俊一先生からアドバイスをもらいながら論文をまとめました。



発表中の半田希美さん

この3人の発表は、上海浦東新区楊高中路の進才中学ホールで行われました。両校とも英語での発表とディスカッションで、見学していた方によると「英語力は互角、発表内容は茗溪」だったそうです。「日本にもアカデミック交流ができる学校があるなんてびっくりした。」と、素直には喜べない？話だったそうです。

## Meikei Method - STUDY SKILLS 新版完成！

このコラム「茗溪学園の Study Skills 教育」の掲載内容全てをまとめた冊子の新版が完成しました。無料でお送りしますので、ご希望の方は、下記までどうぞ。  
kouhou@meikei.ac.jp または info@infoe.com



茗溪生の個人課題研究の上海での発表の報告です。

昨年からはじまった筑波大学での個人課題研究の発表会が、海外へも飛躍しはじまりました。そして、元気いっぱい中国で、発表内容が「アカデミック」に高く評価されるようになったことは、素晴らしい成果です。その経験は、生徒・先生・学校にとって大変貴重です。